

状 況 写 真

区 分	自 主
-----	-----

武雄 営林署

(様式6)

皆伐区域内 プロット写真

プロットNO.3 面積0.01HA



プロットNO.4 面積0.01HA



状 況 写 真

区 分	自 主
-----	-----

武雄 営林署

(様 式 6)

小径木保残区域内
クマイチゴ`侵入状況写真



技術開発課題報告書 (元年度実施報告)

熊本営林局

課題	広葉樹天然林の更新方法について	継続・新規別	継続	担当	計画課	開発箇所	武雄 営林署	昭和61年度
		指示・自主別	自主		造林課			平成 7年度
年度別実施経過		元年度実施報告				評価		
<p>1. 試験地設定 (昭和61年度)</p> <p>(1) 場所 里美西ノ岳有林103ろ1 林小班</p> <p>(2) 面積 0.50ha</p> <p>ア. 小径木保残箇所 0.25ha</p> <p>イ. 皆伐箇所 0.25ha</p> <p>(3) プロット設定</p> <p>ア. 小径木保残箇所No.1 No.2プロット (各プロット10m×10m)</p> <p>イ. 皆伐箇所 No.3 No.4プロット</p> <p>2. 林況調査 (プロット内)</p> <p>(1) 伐採前 (61年度), 伐採後 (63年度) の樹種, 本数, 樹高</p> <p>(2) 稚樹ぼう芽発生調査 (62~63年度)</p>		<p>1. 伐採後プロット内林況調査</p> <p>(1) 保残木の樹種別, 本数, 樹高調査</p> <p>(2) 稚樹 ぼう芽発生調査</p> <p>(3) クズ発芽侵入調査</p>						
		<p>事業費 (技術開発) _____ 千円</p>						

課題

広葉樹天然林の更新方法について

1. プロット内林況調査

(1) 保残木樹種別本数樹高調査

プロット	樹種	胸高径 4cm 以上				胸高径 4cm 未満				備考
		本数	平均根元径 cm	平均胸高径 cm	平均樹高 m	本数	平均根元径 cm	平均胸高径 cm	平均樹高 m	
No. 1	アブツバキ	5	5.0	4.0	2	4	2.8	2.0	3	
	ヒサカキ	2	5.0	5.0	5	3	3.2	3.0	2	
	サガンカ	1	4.5	4.0	4	12	2.8	2.0	2	
	モクシキ	2	5.4	4.0	2	2	3.2	3.0	2	
	ツキミ					1	2.8	2.0	2	
	イヌガン					1	2.0	-	1	
	計	10				23				
No. 2	アブツバキ	4	5.3	4.2	4					
	サガンカ	2	5.1	4.1	6	9	2.3	2.0	2	
	ツキミ					1	1.3	1.0	2	
	イヌガン					1	1.8	-	1	
	計	6				11				

(2) 稚樹・ぼう芽発生調査 表 I・II のとおり

(3) フズ・発芽侵入調査 発芽・侵入なし

表 - I 稚樹発生調査表

樹種	No. 1			No. 2			No. 3			No. 4		
	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)
スズノキ 有用樹計	1	40	100							4	30	400
イヌガヤ							1	30	100	4	80	400
エゴノキ	18	61	1,800	10	50	1,000	3	30	300			
カナクギノキ	4	50	400	1	60	100	2	35	200	1	60	100
フクロキ	1	150	100							1	40	100
ヤブシバキ	2	40	200	2	70	200				2	35	200
その他	14	71	1,400	20	53	2,000	21	42	2,100	17	40	1,700
非有用樹計	39		3,900	33		3,300				25		2,500
合計	40		4,000	33		3,300	27		2,700	29		2,900

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

表 - II ぼう芽発生調査表

樹種	No. 1			No. 2			No. 3			No. 4		
	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)
アカガシ	24	152	2,400	6	140	600	13	171	1,300	22	123	2,200
イスノキ										6	82	600
イタヅイ							6	40	600	3	40	300
カエデ										9	107	900
シラカン	9	101	900									
タブノキ	11	150	1,100	24	125	2,400	22	119	2,200	22	109	2,200
有用樹計	44		4,400	30		3,000	41		4,100	62		6,200
イヌガシ	14	56	1,400	32	63	3,200	11	76	1,100	13	63	1,300
エゴノキ	2	200	200									
フロキ	4	70	400	3	110	300						
モクシキ	1	60	100	1	110	110				4	73	400
アブツバキ	3	100	300	8	106	800	4	83	400	18	100	1,800
アブツケイ	32	80	3,200	13	82	1,300	13	57	1,300	15	59	1,500
その他	39	93	3,900	68	80	6,800	156	81	15,600	103	74	10,300
非有用樹計	95		9,500	125		12,500	184		18,400	153		15,300
計	139		13,900	155		15,500	225		22,500	215		21,500

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

2. 考察

当該箇所は、搬出完了後3年経過している。前回調査時点同様、草本類(アオモジ、アカメガンソウ、フサキ、フマイナゴ)やススキ等々の侵入が多く、このため、被圧による稚樹の枯損が見られた。小径保残木についても、枯損・半枯損が見られるが、これは伐採前は下層木であったものが、上層木の伐採による環境の変化に対応できなかったためと思われる。しかし、半枯損木については、ぼう芽が見られるので早期成木の期待が見込まれる。

現況は、稚樹発生については小径木保残カ所について、やや多く見られたが、ぼう芽発生については皆伐カ所において顕著である。今後、稚樹の刈出し等を実施し、引き続き比較検討を要する。

状 况 写 真

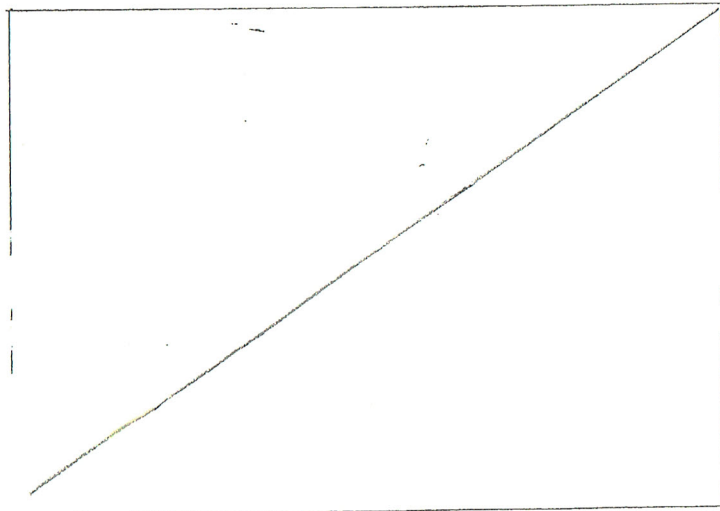
区分 自主

武雄 营林署

(様式 6)

小径木保残区域

面積 0.25 HA



皆伐区域

面積 0.25 HA

